米作り体験隊　（９）　　＊＊　稲の成長 ７　＊＊　　（２０１５．９．２３）

「セミ」に代わり秋の虫の声、加えて涼しい風が感じられます。　あの、猛暑はいずこへ・・
寺田縄の水田は秋色でいっぱいになりました。
この地区は、明治になって「金田村」となりました。まさに、今頃のように稲穂の実り満載の水田が、金色に輝く様子から「金田」との名前が付けられました。江戸時代の寺田縄は「寺田縄村」でしたが、この時「金田村」に組み込まれ、「金田村字寺田縄」となりました。

ご覧のとおり、辺り一面に「金色の稲穂」が広がります。
神奈川県の相模平野は県有数の水田地帯、金田地区を含め平塚市の北部一帯に広大な水田が続きます。『平塚市の水稲収穫量は県内トップで全体の２割近くにあたる米どころ』（朝日新聞）となっています。
私たちの植えた稲の品種は「キヌヒカリ」、県内の作付面積の６～７割を占め主流となっています。この品種は、コシヒカリと比べ背丈が短く耐倒性が強く（倒れにくい）北陸地方で改良・育成され、関東以南の関西を中心に作付面積を広げています。お米の特徴は「炊き上がりのご飯の色が白く絹のようにつややかな米肌を表しています」（日本穀物検定協会）　神奈川県西部の「キヌヒカリ」は食味ランキング（平成２６年度）で「Ａ´」（おおむね良好）という評価を得ています。（同検定協会）

大山や小田原厚木道路の陸橋が見え「サギ」の一群が写真に収まりました。久しぶりの大群でした。

「私たちの田んぼ」

稲の背丈は、以前より低いように感じられます。
よく見ると、十分な実りに稲穂が垂れ下がっています。　豊作の予感がします。

西側、富士山の方角を見ています。今年は台風の直接的な被害を受けていません。そのためか風雨で一帯の稲が倒れることはありません。　耐倒性が高い特徴にもよるのでしょう。

「私たちの田んぼ」は無傷で、おいしいお米が沢山収穫できそうです。

イネに交じって雑穀である「稗（ヒエ)」が見えます。「田の草取り」以降、伸びたのでしょう。中には、イネより背が高くなっているものもあります。

「サギ」の群れが空を舞っています。

近くの水田には「彼岸花」が稲穂を背景に鮮やかに咲いています。